

～原子力の理解を求めて～

えねるぎーかわらばん

Vol. 66
福井県原子力平和利用協議会 略称(原平協)
事務局: 敦賀市野神40-203 TEL: 0770-24-5450
http://www.bitlabo.com/~genheikyotsuruga/index.html

「エネルギーミックス」

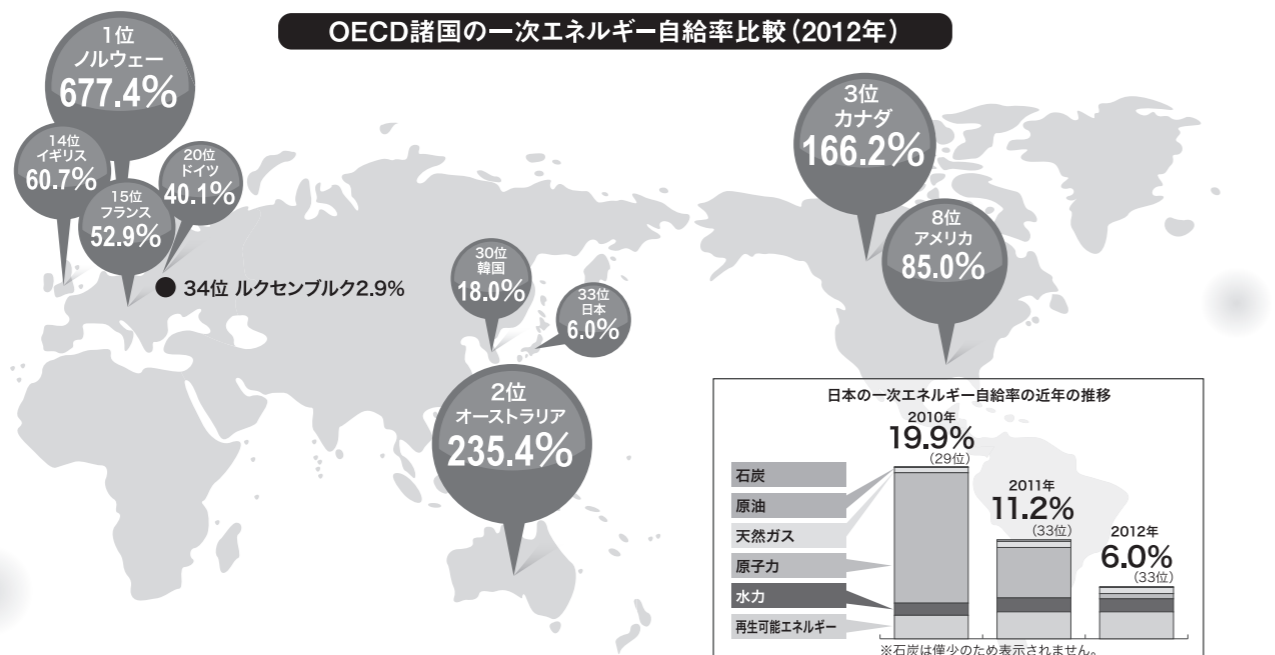
って、ご存知ですか?

経済産業省は、政府が温室効果ガスを2030年に2013年比で26%減らす目標を掲げたことをふまえ、7月16日に開かれた有識者委員会において、温室効果ガスの排出源として大きな割合を占める電力部門について、原子力20~22%、石炭26%、天然ガス27%、石油3%、再生可能エネルギー22~24%の電源構成比率としました。今回は、これらエネルギーミックスの必要性について考えてみたいと思います。

エネルギーミックスが必要な理由は……

日本のエネルギー自給率……

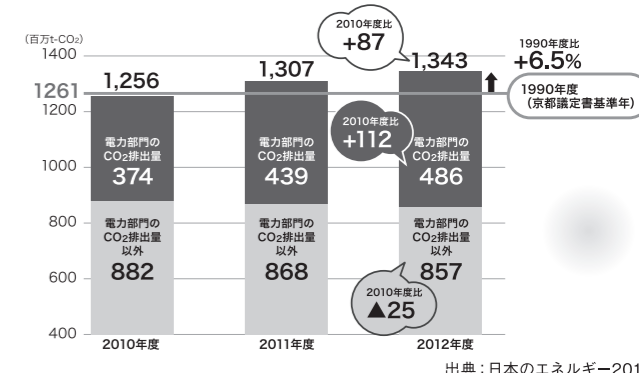
日本の国内では石油、石炭、天然ガスなどエネルギー資源がほとんど採れません。エネルギー自給率はわずか6%。輸入に頼らなければ、生活も経済活動も立ち行きません。



環境問題……

東日本大震災以降、原子力発電所が停止し、発電の化石燃料への依存度が高まり、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量は増加しています。

温室効果ガス排出量の推移(2010~2012年度)

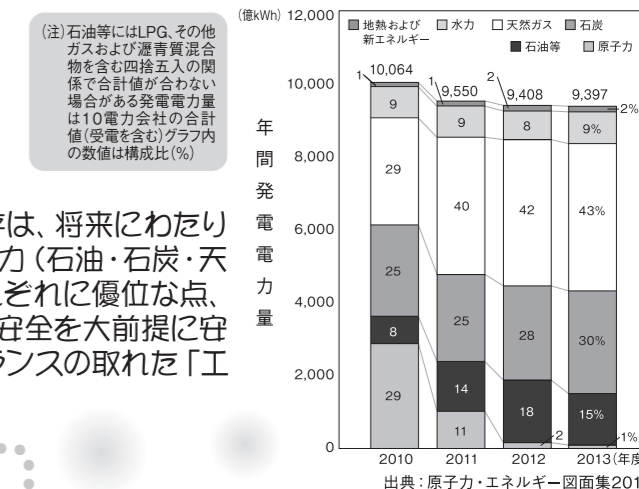


日本の電源構成の推移……

日本は、二度の石油ショックを経験し、それまで石油中心であった発電を東日本大震災以前(2010年)には、多様化が図られ、第1次石油ショック時(1973年)に約80%あった、化石燃料の比率は62%と低下しました。

それが、東日本大震災による原子力発電所の全基停止に伴い、石油・石炭・天然ガスとも大きく増加し、化石燃料への依存度は約88%まで高まりました。現在の電源構成は、海外からのエネルギー(化石燃料)の輸入が途絶えるリスクに対して、極めて脆弱な状況といえます。

電源別発電電力量の実績

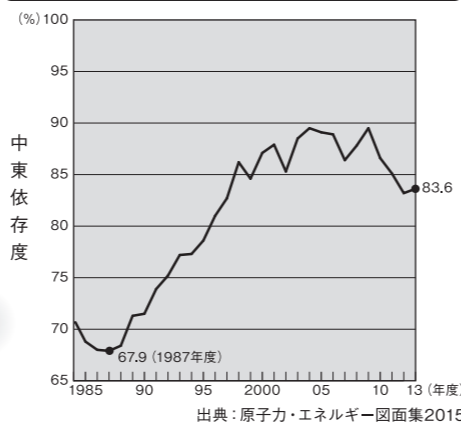


エネルギーの安定供給の確保……

エネルギー資源に乏しい日本にとって、暮らしや経済活動に不可欠なエネルギーを、将来にわたって安定的に確保する「エネルギー安全保障」の確保が至上命題です。

東日本大震災以降、海外から輸入する化石燃料への依存度は上昇しています。現状はなんとか安定供給が保たれていますが、万が一、資源を産出している国の政情や海上輸送に問題が生じた場合、エネルギーの輸入が途絶えるリスクはかつてなく高くなってきます。現在の中東やロシア・ウクライナなどにおいても緊迫した情勢であることから、エネルギーを取り巻く環境が決して楽観を許すものではないことが分かります。

原油輸入の中東依存度の推移

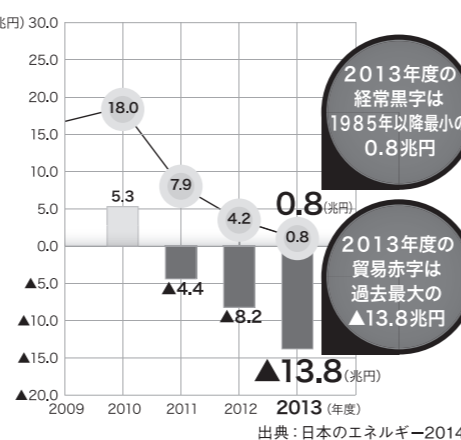


経済の効率性……

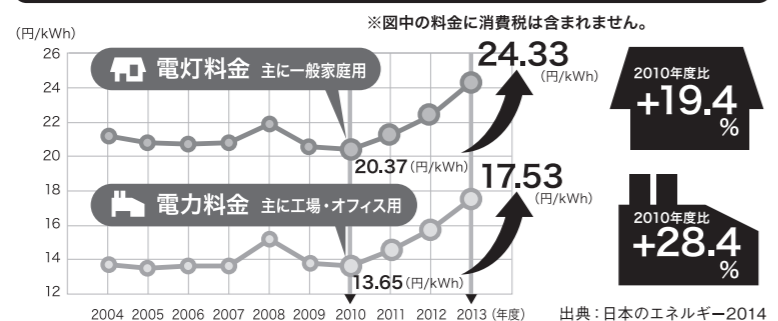
東日本大震災前、原子力発電は、約3割の発電量を占めていましたが、平成26年度は、全基停止していたことにより発電量はゼロとなっています。

原子力発電所の長期稼働停止により、火力発電の追加燃料費が増加し、私たちの生活や経済へ影響が出始めています。

貿易収支及び経常収支の推移



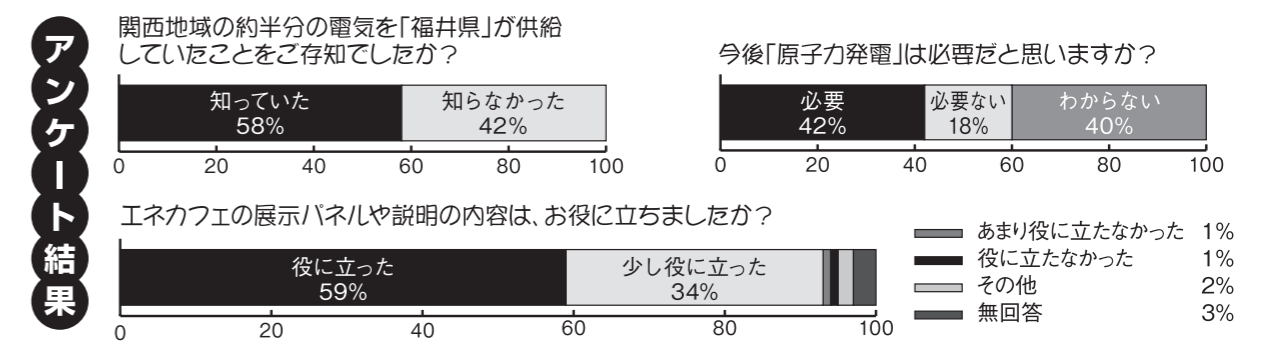
電気料金の推移(2004~2013年度)



事業活動レポート

敦賀支部 青年部が京都・大阪で「エネカフェ」を開催!

エネカフェとは、「日本のエネルギー事情に関しコーヒー等を飲みながら話をしませんか?」をコンセプトに近畿圏の市民の方々へ発電コストやCO₂問題、日本のエネルギー自給率や自然エネルギーの実情等のパネルを見て頂き、そこから原子力の必要性に対して理解を深めていただく事を目的としています。また、放射性廃棄物に関しても実物大のパネルを用いて身近な問題として考えていただきました。今回の開催地(京都・大阪)は原子力発電所がない地域であるため、私共の考えを一方的に伝えるのではなく、相手がどのように考えているのかを伺い、そこから正しい理解を深めていただくことが重要であると考え取組みました。両会場あわせて約300名の市民の方が来場され、アンケートにもご回答を頂きました。賛否両論、色々な意見が出ましたが、「語り合う事」の必要性を今回の「エネカフェ」とおして伺い知ることが出来ました。



- ※来場者からの主なご意見**
- ・原子力発電は資源のない日本で地球温暖化を止める最良の手段と思っている。
 - ・事故、地震、津波などの安全性に不安があるから原子力発電は要らない。
 - ・原子力発電について知らない事が多すぎるから、もっと勉強して考えたいと思いました。
 - ・パネルや説明が大変わかりやすくて良かった。重要な内容であり勉強になった。
 - ・1日だけの活動では周知が十分出来ない。最低一週間は行って機会を増やし、考えるきっかけを作ってほしい。

次号は今年12月に掲載予定です。